

遊煩ト凶林

修正会

初春のお慶び申し上げます

昨年中は大変お世話になりました。

左記の通り修正会を行います

おかげさまで新しい年を迎える事が出来ました。

本年最初のご法座です

是非ご参詣ください

今年もまた諸事雑事に追われながらあつという間に一年が過ぎるのでしよう。

一月八日（日）

午後一時より

意識しようがしまいが好く
も悪しくもその一つ一つの積
み重ねが私です。

読経 法話の後は順正寺名物

共にお念佛の道を歩みまし

大根焼き食べながらお屠蘇や

よう。

福引で遊びましょう。

「縁によつて生まれ、縁によつて生かされ、縁によつて死に、縁によつて浄土往生する」

全て「縁」であることが大乗仏教の根本です。

ただそう言わても「俺、日々努力してるし、頑張つてるし」その努力し頑張つている自分へのご褒美が欲しい心は止むことがない。

また、これだけ自分を取り巻く世界が目まぐるしく変化していくと、何をやっても、何を言つても蠍蟬の斧のごとく感じ無力感と疲労感に捕らわれる。

自分の考え方や行動への執着心はとても強く離れることは難しい。考えたことそれに伴つて行動したことが自分にとって都合の良い結果になることを求めてしまう。これを「自力の執心」と親鸞聖人は押さえる。

すべて「縁」である。自分が考えることも何かをきつかけとし、そこで行動できる時、できない時、これ

もその時の自分を取り巻く環境による。でもやらなくてはならない事は嫌でもやるしかないし、結果はどうあれ行動はしている。出来る出来ないという結果論ではなく、考え続け、行動し続けることが人間という「縁」を頂いた者の宿業なのかもしれない。

今、自分を見つめると変化する社会についていけず無力感にさいなまれ、虚しさを痛感するが、それでも、「それは違うだろ」「こうしよう」という思いがふつぶつと湧き上がつてくるのは、前住職が身をもつて人の生き方を示してくれたおかげだし、日々、怠け者のお尻を蹴つ飛ばしてくれる妻や娘、多くの人が私に働きかけてくれているおかげであると思う。

でも、めんどくさいもの貰つてしまつたな。

新年のご挨拶を申し上げます。

いま、あなたは何処にいますか？何をなさっていますか？あなたは誰ですか？

わたしはここにいるのでしょうか？わたしは誰なのでしょうか？

こうした問い合わせに対して、仏さまは、「何をしていようがしていまいが、何処にいようが、あなたはあなたとしてありますよ。安心なさい。」と、言ってくださっているのでしょうか。

理由理屈なしで、意味づけなんか必要なく、自分を認めればいいのです。。いや、理由理屈付けができないからこそ、意味づけなんかできないからこそ、あなたは大事なのです。

我々が頭で理解できたり証明できたりすることなんかたかが知っています。意味のないと思っていること、理由の解らない状況、当たり前だと思つてやり過ぎてしまつている事象、いつの間にか過ぎ去つている事実に、わたしの大部分、いや、すべてはそこにあるのでしょうか。

意味がないこと、判明されないことなんて、何の価値もない！と思われますか？

では、なぜ穏やかに過ごしたいのに怒るのでしょう。なぜ人を好きになり、なぜ嫌うのでしょう。なぜ幸せを求めて同じ過ちを繰り返すのでしょうか。

いま、あまりにも、自分の理解できること、自分に見えること、聞こえること、自分の思惑に合うこと、そうしたものに振りまされ過ぎてはいないのでしょうか？

わたしたちの生活は、わたしたちの関わり合いは、そんな

単純で、人間に理解説明ができるような代物ではないと思します。だからこそ、解説するのではなく、生活を通して、自分を見つめていくことが必要なのです。

それはわたしであることを確認していく作業です。
お釈迦さまが説かれた教えは、それをすればどうこうなるという教えではなく、事実を事実として認めましょう、という教えです。その事実というのは、一切が自然（じねん）といふこと。なるようになるし、なるようにしかならない、といふこと。縁も業（ごう）も縛も、自分で作るものでもなく、良し悪し関係なく、あなたをあなたたらしめている事実です。

それを認めればいいんだよ、という非常に簡潔な教えです。
そして、親鸞聖人は「わからんものにすべて任せろ」というけれど、分かろうとせずに任せろ、愚者になれと言うけれど、それが一番難しい」というところで悩まれました。その姿勢は、わたしたちが、人間として追い続ける歩みであります。

お互に、自身の生活を、ますます大事と受け止める日々を、一々のその時を送つてまいりましょう。

副住職

グリーフケアの会「微妙音」

「『歎異抄』を読み聞く会」時間変更のご案内

昨年から開催しております、『歎異抄』を手掛かりに自分を見つめる会の時間を変更いたします。
毎月5日（1月と11月はお休み）はそのままですが、
本年より、午後2時から、の開催とさせていただきます。
ご参加お待ちしております。

大体何か大きな行事だつたり旅行だつたりの前はやら

なくてはならないことに追いつめられる。年末もそうだ。

「明日ありと思う心の仇桜夜半に嵐の吹かぬものかは」

宗祖親鸞聖人がお得度（僧侶になる儀式）を受ける時に

読んだといわれる句である。お得度を受ける青蓮院に着

いたのが夕刻、授戒する慈円は時刻も遅いので翌日に儀

式を行う事を提案したその時に、齡僅か9歳の親鸞聖人

が詠んだという。当時は数え年だから満年齢なら7歳か

8歳の子供だ、困ったもんだ。

「明日ありと思う心に安心し今日が嵐になつてゐる」

貫正（住職）五十五歳の句

トホホだ

住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることが有ります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い致します。

177
0041
17.11.4
横正寺
練馬区石神井町

03-3996-2064

定例行事

聞法会 每月2日 午後7時より2時間ほど（一月、八月はお休み）現在、鉛筆写経と法話、座談会やっています

歎異抄を読み聞く会、グリーフケアの会「微妙音」

毎月5日午後2時（一月と十一月はお休み）

白色白光の会（婦人会） 每月第2木曜 1時よりお経の練習と法話と茶話会です（会員制）

浄土真宗はじめて講座 二月、四月、六月、十月、十二月の第2土曜午後2時より5時まで（参加費2000円、照久会会員は1000円）

仏像、描くぞう 「仏像なぞり書き」をテキストに写経ならぬ「写仏」をします。第2水曜夜7時30分（一月十一日はお休み）月の最後の日曜午前9時 1時間ほど（参加費300円、初回のみ、別にテキスト代1000円）

いざれも公開ですのでどなたでもご参加いただけます

平成二十九年度 年回法事表

一 周 忌 平成二十八年

三 回 忌 平成二十七年

七 回 忌 平成二十三年

十三 回忌 平成十七年

十七 回忌 平成十三年

二十三回忌 平成七年

二十七回忌 平成三年

三十三回忌 昭和六十年

三十七回忌 昭和五十六年

五十 回忌 昭和四十三年

お内仏（お仏壇）のお位牌等を「確認下さ

い